

2011年5月11日
大日本スクリーン製造株式会社

2011年3月期 決算説明会

・2012年3月期の業績予想が、前期（2011年3月期）に比べて増収減益となる理由は？

主な理由は、前期に比べて研究開発費や人件費など固定費の増加を見込んでいるためです。研究開発費は、新たな成長に向けて開発投資の増額を予定しております。人件費の増加は、再建策として緊急的に実施していた従業員給与や諸手当のカットの解除や、半導体機器事業の売上増加に伴う海外のサービス人員の増加などによるものです。

・半導体機器事業の競争環境に変化はあったか？

2010年（暦年）におきまして、当社のバッチ式洗浄装置の世界市場でのシェアは上昇しましたが、枚葉式洗浄装置ではシェアが下落しました。これは、枚葉式洗浄装置が使用される工程において、高い技術力が要求される前工程においては高シェアを確保しましたが、配線工程やウエハー端面や裏面洗浄の分野でシェアがダウンしたことによるものと考えております。今後は前工程の高いシェアを堅持するとともに、配線工程などにも注力し、枚葉洗浄装置全体のさらなるシェアアップを図っていきたいと考えております。

・2012年3月期の設備投資の中身は？

設備投資に関しては、引き続き、半導体機器事業のウエイトが高く、評価や研究開発目的の自社製品（洗浄装置など）の取得が多く含まれています。

・印刷関連機器部門について、2012年3月期において、売上があまり伸びない予想の中で、どのように収益を改善させるのか？

2011年3月期に実施しました本体従業員の他部門への異動により、固定費の抑制を見込んでいます。また、中国の生産工場を増床し CTP の現地生産比率を引き上げて、コストダウンを加速させます。さらに、POD に関しては製品ラインアップの拡充や販売体制の整備により売上拡大、利益確保を図ってまいります。